

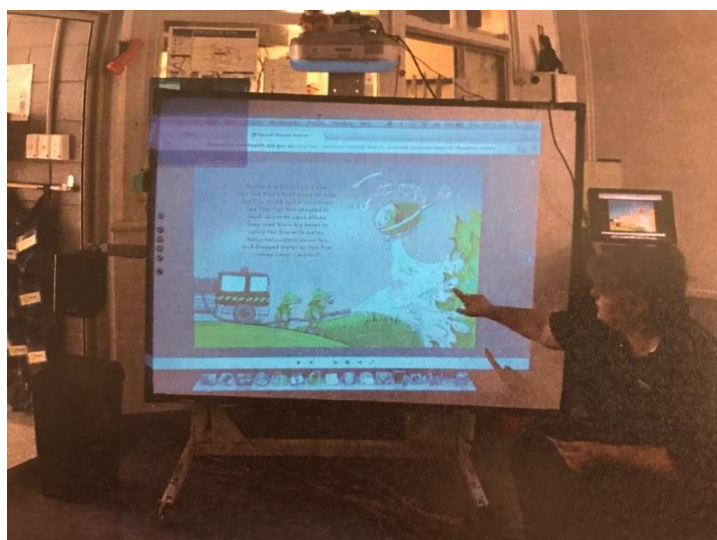
## トビタテ留学 JAPAN 1月レポート

岩手大学教育学部4年 千葉さりな

今月でオーストラリアでの留学生活が終了しました。この経験は私にとって一生の宝物になりそうです。自分がやりたいことを一から計画し、どの国でどんなことを学びたいのかを夢を膨らませながら必死で留学計画を練ったのを覚えています。留学するのは初めてで、一人で海外に行くことも初めてでした。不安もありましたが、実際に飛び立ってみて自分が育った国以外で生活は、日本と全く違う環境で育ってきた人たちと関わるため、考え方や価値観が変わると思いました。私の留学先であるオーストラリアには移民がたくさんいたので、様々な国籍の人と関わり、自分の考えを広げることができました。

まずは、1月の実践について報告したいと思います。1月は、小学校配属の予定でしたが、小学生に上がる前の Prep（プレップ）と呼ばれる5歳児を担当しました。教科を学習するというよりは、絵本の読み聞かせが中心でパソコンからスクリーンに絵本の素材を移して大きな画面で読み聞かせを行いました。最初は、担任の先生が見本を見せてくれたのですが、絵本からイメージすることを児童に問いたり、読み方を変えて読んだり、様々な工夫が見られました。また、低学年向けの英語の絵本には、ちょっとした工夫がなされていて、異なる英単語でも同じ音で終わる単語が多く組み込まれています。たとえば、

pretty・tiny など最後の音が同じ単語がたくさん入っています。たとえ内容がわからなくても、音で気付くことも勉強の一つなのだそうです。そういった仕組みを持つ英語の絵本は、一教材としてとても効果的であり、児童の思考力を高めるので、日本の教育でも絵本を教科書の一環として活用できると思いました。



←授業の様子

今回の留学を振り返ってみると、私の思い描いていた、「ICT を使って児童が一生懸命授業に取り組む」姿はあまり見られなかった気がします。オーストラリアの教育では「自由」を大事にしています。そのため、日本の児童のように自分の椅子に長時間座ることはまずありません。ただ、iPad やパソコンを使う時は、すごく集中します。集中しすぎて、教員の話聞いていない児童もいるくらいです。ここでわかったのは、電子機器は児童の興味を引きつけるだけでなく、授業の妨げになる教材でもあることです。これは、使用前に必ずルールを決めて使うことで、とても効果的な教材の一つになると思いました。また、「日本とオーストラリアの教育の違い」とインターネットで検索すれば、情報を簡単に

獲得できます。しかし、実際に自分の目で教育現場を見て、働き、体験すると自分なりに日本に取り入れたいアイデアが生まれ、さらには現場教員が使う英語をたくさん吸収できます。教員はどんな英語のフレーズを良く使うのか、どんな風に ICT を使っているのかを学ぶことができました。実際に現場で働いてみて、日本との教育カリキュラムは大きく異なってはいましたが、共通する点は、どの国の児童もみんな素直だということです。困っている時には、何かしらのサインを出し、嬉しいことがあった時は、聞き取れないほど速いスピードの英語で話しかけてきます。インターンシップを始めたばかりの時は、自分の思いを英語でうまく伝えられず、悔しく苦しい日々を送りましたが、トビタテ生との交流や、周りの方々の支えを通して、解決策を考え、児童の気持ちに寄り添うことができたので、私自身また少し成長できたと感じています。

### ～生活編～

オーストラリアでは、バスを使って通勤していました。日本のように次のバス停を案内するアナウンスや表示がないので、自分で位置を確認し、STOP ボタンを押す必要があります。各州に SUICA に似た交通カードがあり、1 時間乗り放題であったり、区域に応じて値段が変わるシステムだったり、州でルールが決められています。しかし、バスを降りる人達のほとんどが、降り口が運転手から遠い時でも、降りる際に「Thank you.」と言

います。また、知らない人も普通に話しかけてきます。例えば、バスに乗っている時は、「今日いい天気だよね。」と言われたり、スーパーで何か見ている時は、「これおいしいよ。」と言ってきたりします。これは私だけでなく、よく見る光景で、オーストラリアの人はとてもフレンドリーです。また、時間の流れものんびりしていて、だんだん心が寛容になります。日本から出国する際は、すぐに日本が恋しくなるのだろうと予想していましたが、予想とは真逆で、こんな素敵な国で生活できたことを嬉しく思います。

これからはトビタテ生の一員、そして教員となって、世界はこんなところだと、自分が体験してきた経験や知識発信し、国際的な視点をもつ人材を育てる立場として活躍していきたいです。

